

カラスガレイ オホーツク公海

Greenland halibut *Reinhardtius hippoglossoides*



管理・関係機関

農林水産省

生物学的特性

- 最大体長・体重：1.2 m（下顎先端～尾鰭基底）・34.5 kg
- 寿命：10 歳以上
- 性成熟年齢：雄 不明、雌 8～9 歳以降
- 産卵期・産卵場：秋～冬、詳細不明
- 索餌期・索餌場：不明、大陸棚上及び大陸棚斜面
- 食性：スケトウダラ等の魚類及びイカ類
- 捕食者：シャチ等

利用・用途

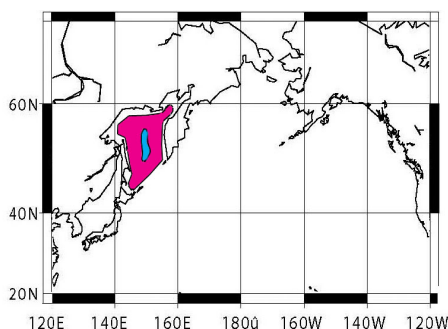
切り身、寿司ネタや惣菜用として利用される。

漁業の特徴

オホーツク公海はロシア水域に囲まれ、本資源は周辺のロシア水域大陸棚斜面に分布する資源と連続すると考えられる。1980年代半ばに、北海道の漁船（知事許可船）が本資源を対象に公海で底刺網の試験操業を開始し、間もなく本格操業に移行した。1992年以降、公海での操業と並行してロシア水域での操業が行われたが、2001年以降はロシア水域での操業は許可されておらず、公海でのみの操業となっている。本資源の漁業は、2000年度に北海道知事許可漁業から大臣承認漁業に移行し、さらに2007年度に特定大臣許可漁業となった。その後、2020年12月1日に改正漁業法が施行され、特定大臣許可漁業から大臣許可漁業となった。海水が発達する概ね11～3月は休漁としている。漁業開始時の1980年代には5～6隻が出漁し、延べ使用網数は1,600百～2,400百反程度であったが、操業隻数の減少とともに網数は減少し、2000年代半ば以降は1～2隻100百～500百反程度となった。直近の2021～2025年は、漁期中に操業船がなく、休漁した。なお、オホーツク公海における本資源を対象とした他国の漁業はない。

漁獲の動向

1980年代後半から1990年代前半の漁業開始時の漁獲量は4,000トンを超え、単位努力量当たりの漁獲量（CPUE、ここでは刺網1反当たり漁獲量）も20～30kg/反程度の高い値を示していたが、1990年代中頃に漁獲量は13～767トン、CPUEは3.1～8.8kg/反の低水準に落ち込んだ。1992年以降2000年まで、漁獲努力の一部がロシア水域に向けられていたことが、漁獲量の減少をもたらした一面はあるが、CPUEの経年的な変動は1990年代中頃の資源水準が低かった可能性を示している。公海操業のみとなった2001年以降では、2019年までの漁獲量は119～1,672トン、CPUEは6.3～22.1kg/反で推移した。操業があった直近の2020年の漁獲量は128トンで、2019年（341トン）より213トン減少した。CPUEは5.5kg/反であり、漁業開始時と比較して低位水準であった。



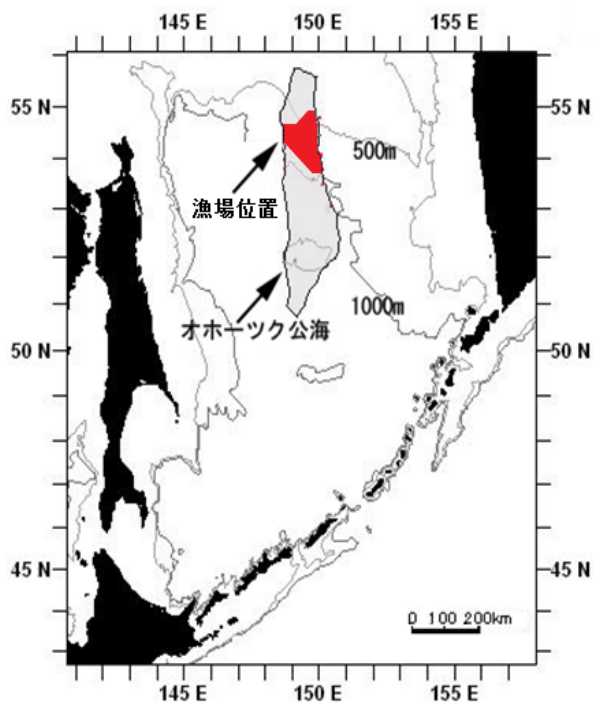
オホーツク海カラスガレイ分布域（赤）及びオホーツク公海の漁場（青）

資源状態

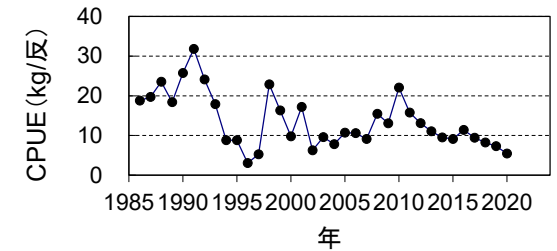
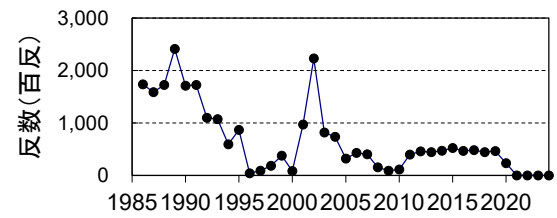
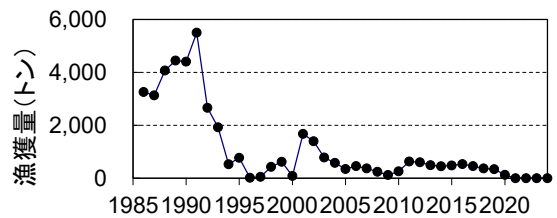
漁業形態が変化している中での動態ではあるが、CPUEの推移から資源水準を判断すると、漁業開始時の1980年代の高位な時期から、1990年代中頃に低水準となり、1990年代後半から2002年までは概ね中位から低位水準の間で変動していた。漁業形態の変化の影響も考慮する必要があるが、近年の資源水準（CPUE）は低位にあり、その動向も減少と判断される。

管理方策

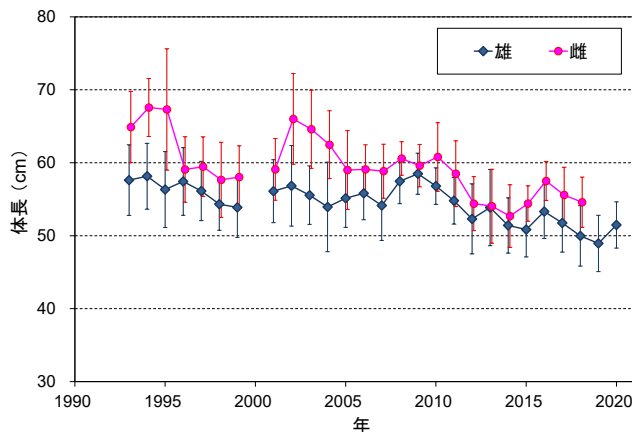
本資源は隣接するロシア水域大陸棚斜面に分布する資源と連続していることから、公海域の漁業管理のみによる資源保全では十分ではない。現在は操業隻数が2隻以下に限られ、さらに冬期には結氷のため漁業ができないことにより、実質的に漁獲努力量が制限されている。また、使用漁具の網目は結節から結節までの長さを12cm以上として小型魚の漁獲を防止している。今後、資源状況に関するモニタリングを継続しつつ、資源を将来にわたり持続的に利用するため、大臣許可漁業制に基づく操業船隻数許可や使用漁具の網目制限などの管理措置を継続することが必要と考えられる。そのためには漁業情報収集体制の維持と漁獲物標本分析によるモニタリングが必要である。なお、隣接するロシア北オホーツク小海区におけるカラスガレイ総漁獲可能量（TAC）は2009～2018年はおよそ5,300～6,900トンで、2019～2021年はカラスガレイ・オヒョウとしておよそ4,800～6,500トンとなり、2022～2025年はカラスガレイとしてそれぞれ2,540、1,770、730、650トンであった。この海区も含めたロシア水域大陸棚海域における1991～2001年の平均漁獲量は4,300トンである。



オホーツク公海（灰）における近年の漁場位置（赤）

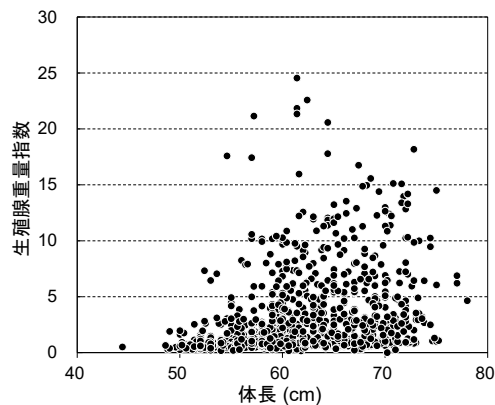
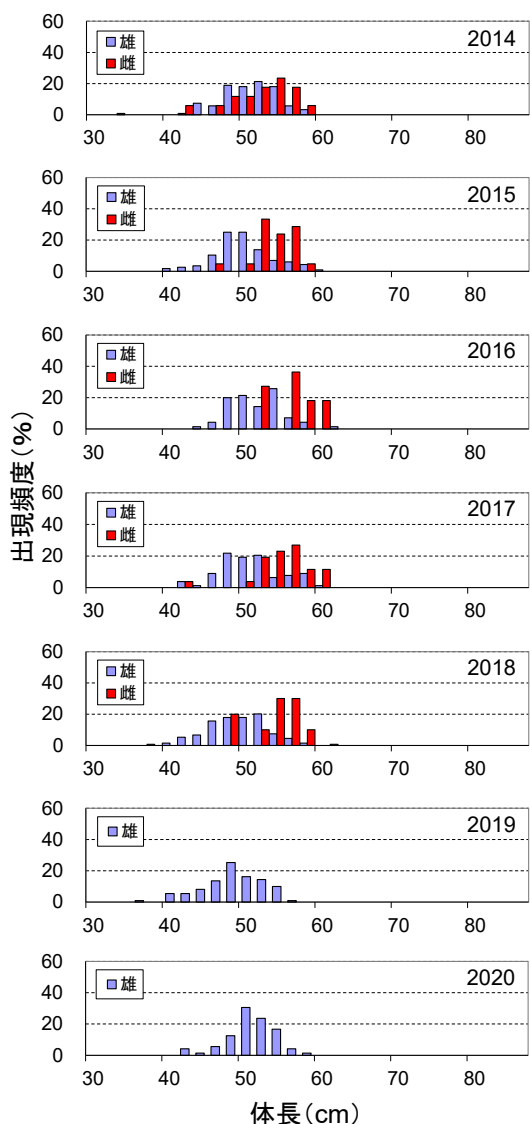


オホーツク公海におけるカラスガレイ漁獲量（上図）、努力量（中図）及びCPUE（下図）（1986～2024年、漁獲成績報告書に基づく）
2021～2023年は操業がなかったため、CPUEは欠測。



カラスガレイ漁獲物の体長（平均値±標準偏差、1993～2020年）
2019、2020年は雌の標本数が少なく、漁獲物の体長組成を十分反映していない可能性があることから、雄のみを示した。

カラスガレイ（オホーツク公海）の資源の現況（要約表）	
世界の漁獲量 （最近5年間）	オホーツク公海における他国の漁獲は確認されていない
我が国の漁獲量 （最近5年間）	0~128トン 最近（2024）年：0トン 平均：26トン（2020~2024年）
資源評価の方法	操業船CPUEの動向により水準と動向を評価
資源の状態 （資源評価結果）	<ul style="list-style-type: none"> CPUE（5.5kg/反、2020年） 資源水準 1986~2020年のCPUEの最高値~最低値を三等分して、高位・中位・低位として資源水準を評価すると、資源水準は低位。 資源動向 公海漁場のみでの操業となった2002年以降のCPUEの推移で資源動向を評価すると、資源動向は減少
管理目標	資源水準の回復
管理措置	<ul style="list-style-type: none"> 大臣許可漁業制に基づく操業船隻数許可 小型魚の漁獲を防止（網目の結節から結節までの長さ12cm以上） 冬期間結氷のため休漁
管理機関・関係機関	農林水産省
最新の資源評価年	2020年（CPUEの得られた最新年）
次回の資源評価年	未定



カラスガレイ（雌）の生殖腺重量指数

カラスガレイ漁獲物の体長組成（2014~2020年）
2019、2020年は雌の標本数が少なく、漁獲物の体長組成を十分反映していない可能性があることから、雄の体長組成のみを示した。